

北九州市小学生バスケットボール連盟

送別大会 3on3 ルール

- 1 ゲーム・5分。合図で一斉スタート。原則として時間は止めないが、審判が必要と判断した場合には、ゲームクロックを止めることができる。
「必要な場合」とは、ボールが遠くまで出たとき・けがなどのトラブルが発生した場合など。
- 最初のオフェンスは、ジャンケンで勝った方から行う。
- オフェンスは、すべて、セーフティゾーンから始まる。
 - ① ゲームの開始のとき。
 - ② ショットが成功したあと。
 - ③ ファウル及びヴァイオレーションがあったあと。(スローインやフリースローは行わない)
 - ④ ヘルドボールのとき。(すべてディフェンス側のボール)
 - ⑤ リバウンドボールをディフェンス側が保持したとき。
 - ⑥ ディフェンスがカット・スティールをしたとき。
- ※ 審判は合図をし、セーフティゾーンを指して選手に指示をすること。
- ※ セーフティゾーンへは、ボールを持って運んでも良い。セーフティゾーンへ運んでいるボールを、相手はカットしてはならない。
- ファウルのあとは、ファウルをされたチームのボールでスタートする。
- ファウルは、常に1点が与えられる。ショット時のファウルは、ショットが成功すればカウント+1点となる。(3ポイントが成功すれば4点)
 - ※ ファウルをされた場合でも、ショットが成功した場合は、攻撃権は相手に移る。
- ファウルによる退場はない。
- 3ポイント制を採用する。
 - ※ ショット前…ラインを踏んではならない。ショット後…ラインを踏んでも、越えてもよい。
 - ※ シューターが3ポイントラインの外側からショットをしていれば、ディフェンスがラインの内側からボールに触れていても、ショットが成功すれば3点を与える。
- オフェンスは、攻撃を開始した瞬間(ドリブルやパスによりボールがセーフティゾーンを出た瞬間)から14秒以内にショットをしなければならない。【14秒ルール】
14秒以内にショットができない場合は、ヴァイオレーションである。
ディフェンスがカットしてアウトオブバウンズになり、オフェンス側(カットされた側)のボールで再開する場合、14秒は継続とする。
- 次の場合、オフェンスの権利を得たチームは、5秒以内にボールをセーフティゾーンに戻し、攻撃を再開しなければならない。(ドリブルやパスによりボールをセーフティゾーンから出さなければならない)【5秒ルール】
 - ① ショットが成功したあと。
 - ② ファウル及びヴァイオレーションがあったあと。
 - ③ ヘルドボールのとき。
 - ④ リバウンドボールをディフェンス側が保持したとき。
 - ⑤ ディフェンスがカット・スティールをしたとき。(ディフェンスがカットしてアウトオブバウン

ズになった場合は、オフENS側（カットされた側）のボールで再開する。）

※ 5秒以内に攻撃を再開できない場合は、ヴァイオリジョンである。

※ 審判は、選手やT・Oに必要な指示をしたあと、5秒を計測すること。

- セーフティーゾーンには、ディフェンスが入ることはできない。また、オフENSも攻撃を開始したあとは、セーフティーゾーンに入ることはできない。

ディフェンスがセーフティーゾーンに入ったり、オフENSが攻撃開始後にセーフティーゾーンに入ったりすることは、ヴァイオリジョンである。

※ 審判は、選手がラインを踏んだときと同じ処置をすること。

- その他

● 14秒ルールの計時等デジタイマーの操作は、各コートのT・Oが行う。

● T・O及び得点板は、次のゲームの選手が行う。

● 審判団は、ゲームがスムーズに進行するように配慮する。特にゲームとゲームの間が短くなるように、次のゲームのチームを事前に確認し、速やかに交替をさせるようにする。

● 少女の部のときには少女全員、少年の部のときには少年全員、コートにおりておくこと。

● 服装は通常のユニホーム、またはTシャツ程度のもとし、フードや金具などのついたものや、派手なものなどは禁止する。ユニホーム以外のTシャツなどを着用する場合は、チームで同一のものにそろえること。

頭髪の染色や顔のペインティング等は、大会に支障をきたすことがあったため、禁止します。指導者の方で徹底して下さい。

● 順位決定は、①勝率⇒②ゴールアベレージで決める。それでも決まらない場合は、代表1名によるジャンケンを行う。（予選・決勝とも延長はない→同点の場合は代表1名のジャンケンを行う。）

